

「広域連携チーム」図上演習の開催結果（報告）

令和4年1月28日に令和3年度広域連携チーム図上演習を実施した。なお、コロナウィルスのまん延防止等重点措置発令のため、リモート開催とした。

1. 日時 令和4年1月28日 13:00～16:00

2. 場所 (一財)日本環境衛生センター本館 2階ホール

※九州地方環境事務所と(一財)日本環境衛生センターのみ現地。

他の構成員はリモート参加。(Cisco Webex Meetings を使用)

3. 参加者

県 : 6団体6名

佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

市 : 8団体8名

北九州市、福岡市、久留米市、長崎市、熊本市、大分市、宮崎市、那覇市

民間団体 : 1団体1名

全産連九州地域協議会

国の機関 : 2団体2名

九州地方整備局、沖縄総合事務局

有識者 : 1団体1名

名古屋大学 平山准教授

事務局 : 2団体12名

九州地方環境事務所、日本環境衛生センター

4. 演習の内容

1) 演習1 広域連携チームの発足

発災から事前準備対応要請、被災状況の確認、ブロック内連携体制構築までの一連の流れを、“大規模災害発生時における九州ブロック 災害廃棄物対策行動計画”に基づいて確認した。関係者間の連絡はメールを用いて行ったが、セキュリティの関係上、Web 会議用のパソコンでメールが使用できない参加者（参加者中7名）は、事前に郵送した当該場面の用紙を、Web 上に映してもらうことにより、メールの代わりとした。

2) 演習2 広域連携チームの活動

広域連携チームが発足した後の活動について演習を実施した。参加者を3グループに分け、行動計画では広域連携チームには参加しない全産連、国の機関の方にも広域連携チームの一員として参加して頂いた。事前に配布していたリソースの表と直前に取り出して頂いた支援要請や各種課題等を

見比べながら、Web 会議のチャット機能を活用して参加者から意見を頂きながら、マッチングや課題解決を行った。

5. 演習終了後のご意見

- 長崎県：広域連携チームに情報がたくさんありすぎるのは、大変だと感じる。チームで全部やってしまうのではなく、産業資源循環協会の方で把握している情報の中で調整してもらうとか、都道府県を通して調整してもらおうという方法も考えられる。広域連携チームの中ですべてやるのは現実的ではないと感じた。
- REO 九州：ご意見頂いたような課題を抽出するための演習であり、ご意見を踏まえて行動計画の今後の改訂につなげていきたいと思っている。ブロック協議会でも、またご意見を頂きたい。
- 平山准教授：このような形での演習の取組はまだまだ始まったばかりである。今回の演習を通じて皆さん様々な気づきがあったかと思う。仮置場に溜まった水をどうするとか仮置場でスタックしたらどうするとかいう課題が事務局から出されていたが、このようなことを訓練で経験しておくことは重要である。参加者の皆さんは職場の中でもこのような課題について議論してもらえれば良いと思う。環境省及び事務局に対してであるが、デジタルトランスフォーメーションというものもあるので、是非地図をオンライン上で共有したり、SIP 4 D や ISUT (アイサット) という災害時の共有システムを使って訓練を行うことを計画してもらえればと思う。この前日向灘の地震があったが、もう少し大きければ南海トラフの臨時情報の注意というものになる。そういった時の行動についても今後考えておかなければならない。